

熊野方面史跡めぐり歌日記(2)

長崎史談会相談役 宮川雅一

<第2日目>

10. 午前五時 風呂場の開く 時を待ち
滝探しする 勝浦の宿

宿舎から那智の滝が見えるというので、部屋の窓や浴場から探すがなかなか見当たらず、従業員に教えられてようやく場所が分かった。

11. 那智大社 大型クレーンで 修理中
これも歴史と カメラに収む

宿を午前8時に出て、那智の滝に急ぐ。曲がりくねった山道の途中で滝が見え隠れする。駐車場から坂を下り、絵画でよく知る那智の滝全体が見えたと思ったら、大型クレーンの動くのまです視野に入ってきた。一昨年の風水害からの復旧工事中らしい。滝自体が御神体なので本殿はない。滝に拍手を打ち、右側上部へ長い階段を登って移動する。

12. 捕陀落へ 旅発つ僧の 行く末は
観音楽土か はた海底(みなそこ)か

西国観音巡礼第一番札所補陀落山青岸渡寺に参拝して会長の少し怖い、井上靖が小説にしている補陀落渡海の説話と現実を聴く。

13. 那智黒は 碁石か飴かと 思いきや
八咫鳥など 置物もある

石段途中にあった那智黒専門店では比較的安価な那智黒と称する飴玉とふくろうの置物を土産に買う。那智黒の原石粉末を型で固め、八咫鳥等の置物が作られているのである。

14. 走れども バス走れども 船着き場
いまだに見えず 吉野川べり

吉野川の右岸を船着き場のある志古を目指してバスで急ぐが、なかなか着かない。こちらの吉野川も結構大きい河川である。船着き場で弁当を受け取り、高速遊覧船に乗り込む。水量が少ないことで一時諦めていた瀨峡巡りができるようになったのである。

15. 飛龍(ひろろ)社の 霊験受けて 高速艇
滝の飛沫(しぶき)に なりて走れり

水量が少なくなった瀨峡をジェット遊覧船が轟音を立てて走る。弁当を食べながら、録音されたガイドの声に耳をそばだてるが殆ど聞こえない。折角の溪谷に倒木などが目立ち、一昨年の風水害の酷さを自ずと物語っている。岸に下



りて売店を覗き目ぼしい品がなかったので、黒い石を一個拾って土産にする。志古に戻り、本宮へ山道をバスで急ぐ。

16. 明治二十二年 熊野本宮 遷座せり
水害のため 高さところへ

川岸近くに、旧社を示す、丈が高く、色は那智黒の大鳥居が見える。移転後の本宮への正面参道がかなり急で長い石段だったので、ゆるやかな裏道を選んで登り切ると、三殿に四柱の神を祀る本殿全体に修理のための幕が掛かっているのがわかり。熊野古道が残っているというので行くと、石段の壊れた坂道だったので、眺めるだけにした。

17. 道すがら 牛馬童子で バスを降り
熊野古道を 垣間見てくる
熊野古道らしい古道を歩く機会がなかったことに対す

る、親切な運転手さんの配慮で、白浜温泉への道すがら売店の開いていた牛馬童子口で停車し、山中の風情のある典型的な熊野古道を見ることができた。時間の都合で歩くのは止めた。

18. 白浜の 海辺巡れば とりどりの
ホテル旅館が 特色を競う

これまた運転手さんのサービスで、ホテルに入る前にバスが複雑な地形の白浜海岸を一周して、夕暮の海の景色や様々な形の建築物を観察することができた。ホテルの前に海岸公園ができていたが白砂はオーストラリアから運び、奇岩も人工なのには驚いた。

19. 「長崎の鐘」全員で 合唱し
熊野の旅の 締めくくりする

宿に着き、温泉に入って、会食となる。牛陶板+鮎焼料理を食べながらビール・酒・焼酎で、巡礼の疲れを癒す。昨晚できなかったカラオケ大会では、会長はじめ男性応募者が引きも切らず、女性陣も合唱で応じ、最後に全員で「長崎の鐘」を斉唱して会を終えた。

(次号へ続く)